

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2019 年
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ： オープニング、一般参賀、北朝鮮が飛翔体を発射、北朝鮮の食料事情、金正男氏殺害事件 【特集】 退位と即位		
報道トピック一覧 ・ オープニング ・ 一般参賀 ・ 北朝鮮が飛翔体を発射 ・ 北朝鮮の食糧事情 ・ アメリカ南部で旅客機が革に転落 ・ ホリエモンロケット宇宙に到着 ・ 高速道路の U ターンラッシュがピークに ・ 金正男氏殺害事件 ・ 関東地方で天気急変 ・ 千葉県雑木林で遺体が発見される ・ 中央自動車道を男性が自転車で走行 ・ 【特集】 退位と即位		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組のオープニングで金平キャスターが「憲政史上初の、生前退位による天皇の代替わり、テレビではおびただしい分量で報道されました、ですが国民にとって天皇とはなんなのか、憲法や歴史との関係ではどうなのか、そうした点からの報道は案外少なかったのではないのでしょうか。今日はそうした理解を深める独自取材によるファクトをいくつかお伝えします、ぜひとも御覧ください。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 23 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ 一般参賀：結論→特に問題なし 皇居では今日天皇陛下の即位を祝う一般参賀が行われ 14 万人余りを訪れ平成最初の一般参賀を上回ったとのこと、一般参賀には秋篠宮御夫妻、眞子さま、佳子さまら皇族方も出席された一方で退位した上皇さまと上皇后さまは当初の予定通り出席されたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 223 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ 北朝鮮が飛翔体を発射：結論→特に問題なし 韓国軍の合同参謀本部によると北朝鮮は今日午前九時 6 分ごろから 27 分ごろにかけて北朝鮮東部元山の北のホド半島一帯から北東の方角に向けて短距離飛翔体を複数発射したとことが発表されたこと、飛翔体は東の海上まで 70 キロから 200 キロ程度とんだということで米韓軍事当局が分析を進めているとのこと、日本政府は日		

本の領域や排他的経済水域への弾道ミサイルの飛来は確認されていないとしているとことが報じられた。この 80 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮の食糧事情：結論→特に問題なし

WFT 国連世界食糧計画などは今年 3 月末から 4 月中旬にかけて北朝鮮で食糧事情の現地調査を行い、その結果を 3 日発表したこと、それによると去年から今年にかけて北朝鮮では間伐や洪水によってここ 10 年で最悪の不作に見舞われおよそ 1000 万人が食糧不足の危機に直面しているということ、対して北朝鮮は食糧事情の悪化の一因は経済制裁にあると支援や制裁解除を求めているが今朝の飛翔体発射を受けて人道支援に対する国際社会の理解も厳しくなりそうとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 49 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・金正男氏殺害事件：結論→特になし

北朝鮮の金正恩党委員長長の兄ジョンナム氏がマレーシアで殺害された事件で実刑判決を受けたベトナム国籍の女性ドワン・ティ・フォンさんが出所しふるさとのベトナムに帰国したことが取り上げられた。

フォンさんが今日未明ベトナム北部ナムディンの実家に戻った際に殺害された金正男氏について聞かれ、「すみません、その質問には答えられません。」と答えるシーンが取り上げられた他、この事件ではもうひとりの実行犯とされたインドネシア国籍の女性も既に釈放されたが犯行を指示したとみられる北朝鮮の男四人は事件直後にマレーシアを出国し真相解明は一層困難となっているとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 113 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 退位と即位

退位と即位について以下に朱記したような VTR が特集されていた。

[VTR1]

ナレ「4 月 3 日、皇居宮殿で、憲政史上初となる退位の儀式が行われた。」

上皇陛下「象徴としての私を受け入れ、支えくれた国民に心から感謝します。」

"国民「4、3、2、1、0」

テロップ「5 月 1 日、午前 0 時。東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県、気仙沼市。」

膳場「今、令和を迎えて、皆さん本当、花火に向かって、いろんなこと思っているんでしょうね。しずかにこの海の方を眺めています。」

ナレ「花火には、災害のない平和な時代になってほしいとの思いが込められていた。」

おばさん「令和は、穏やかで、ね、皆がね、穏やかに暮らせる時代であってほしいですね。」

おじさん「まあ、忘れちゃいけないものを忘れないように。あの一年号が変わっても、気持ちはこう、そういう気持ちで、はい」

男性たち「はあー令和、令和イエエーイー。

ナレ「新天皇陛下は、皇居・宮殿で、即位に伴う儀式に臨まれた。

膳場「えー皇居、二重橋前に来ています。今、この時間まさに皇居、宮殿の中では、即位後朝見の儀が行われています。もうまもなくしますと、新天皇陛下のお言葉が、発表されるそんなタイミングなんですけども、えー今日、この皇居には、お祝いに駆け付ける方、そして、観光客の方が、ひっきりなしに見えています。」

新天皇陛下「常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国、および日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと、国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望致します。」
ナレ「皇居前広場では、儀式の様子をスマートフォンで見ると人たちの姿が、多く見られた。一方、この改元、代替わりを塀の中で見つめる人もいた。」

〔VTR2〕

"ナレ「5月1日、」

日下部「えーこの高い塀の内側が横浜刑務所です。えー町中の喧騒とは、対照的にですね、非常に静かな令和最初の朝を迎えています。限られた情報の中、受刑者の人たちは、どのような思いで新しい元号を迎えたんでしょうか。」 "

ナレ「横浜市、港南区にある横浜刑務所。過去に犯罪を重ねた受刑者など、およそ950人を収容している。」

日下部「えーこちらが、居住棟の建物です。えー10連休の間、作業も休みだということで、時折、笑い声なども聞こえてきます。」

"ナレ「整備された中庭には、和の文字が刻まれた石碑がある。新天皇が即位したこの日、横浜刑務所では、特別なものを用意していた。受刑者一人当たり、およそ60円の予算で購入した菓子だ。包み紙には、令和と書かれている。職員が台車に乗せ、受刑者たちのいる部屋へと運ぶ。」

刑務官「配食」

受刑者「ありがとうございます」 "

ナレ「1部屋あたり、5、6人いる受刑者たちに、一つずつ配られた。袋の中身は。どら焼きだ。普段、甘いものが全くでない刑務所では、菓子は最も喜ばれるものだという。そして、昼過ぎ、」

日下部「えーとちょうどテレビを視聴する時間なんですがね、あの一画面ではですね、令和に変わる瞬間の映像がこう出てるので、皆さんこう食い入るようにテレビに見入ってますね。」

"テレビ「令和の訪れを盛大な花火でお祝い。」

ナレ「どら焼きを食べながら、受刑者たちが見ているのは、昼の情報番組だった。元号が平成から、令和に変わった瞬間の様子を伝えている。就寝時間はよる九時の為、半日遅れで、初めて目にすることになったのだ。」 "

日下部「こんにちは。よろしくお願いします。」

ナレ「受刑者たちに話を聞いた。」

"受刑者刑期1年11カ月（道交法違反）53歳「新しい令和っていうまあ、あの年号になってその変わった時に、社会にいないっていうのが、やっぱり自分でも、いろいろ考えることはありますね。はい。」

日下部「今日ね、まあお祝いということで、どら焼きでたと思いますが、」 "

受刑者刑期1年11カ月（道交法違反）53歳「令和っていう文字が書いてあったんで、それをいただく、いただいたんですけども、とてもおいしくいただきました。はい、この中で、そういう時を超えるっていうのが、残念でならないですね。はい。」

"日下部「最後の」

受刑者刑期1年8カ月（覚せい剤取締法違反 57歳）「先ほどのテレビの内容で少しずつ実感が湧いてきたというのが正直なところです。うらやましかったですね。待ってる人もいますので。一緒に祝えたらなあといういろんな思いがありました。」 "

"日下部「わざわざすみません。」

ナレ「平成の31年間で刑務所に6度入ったというこの受刑者は、」

受刑者刑期3年（覚せい剤取締法違反 63歳）「今回施設に入るときには、まだ元号が入っていると決まっていな

かったんで、まさかこんなにはやく変わるとはとは、思ってたかったです。残りの人生が少ないけど、本当にここでこうリセットして、令和の次の時代まで生きてるかどうか分からないですけど、本当にやり直したい気持ちでいっぱいですね。はい」

ナレ「今回の天皇の代替わり、海外からはどう見えているのだろうか。かつて王政を敷いていたスペイン、その後、40年近い独裁体制を経て、1978年から、立憲君主制をとっている。」

スペイン ホルヘ・トレド・アルビニャーナ大使（吹替）「王政や天皇制のあることの、最もよい点は、日本やスペインの国民が、天皇や国王を通して、そこに歴史を見ることができることです。」

ナレ「立憲君主制になって、最初の国王は、フアン・カルロス1世だ。」

膳場「スペイン王国民にとって、スペインの王室・国王というのは、どういった存在ですか？」

ホルヘスペイン大使（吹替）「スペインが民主主義に復帰したこと、そしてヨーロッパと世界に復帰したことの象徴です。フアン・カルロス国王が主導することによって、スペイン国民の9割以上が、国民投票で王政復古のスペイン国憲法を承認しました。」

ナレ「5年前、カルロス国王が、生前に退位できるように法改正され、息子のフェリペ6世が即位した。状況は日本の代替わりと重なって見える。」

ホルヘスペイン大使（吹替）「国王も、新天皇もそれぞれの父親が、とてもいいモデルになるとおもいます。父親のように行動し、新たな時代に適応していくことが、大事です。」

ナレ「退位したばかりの上皇様は、皇太子時代から、積極的に世界の交流を続けてきた。本格的な国際親善デビューは、1953年、エリザベス女王の戴冠式に参列されたときの事だった。」

ナレ「その当時から親交が深いのが、ベルギー王室だ。当時のボードワン国王は、親日家で、上皇様と年が近く、すぐに打ち解けたという。ファビオラ王妃と、半世紀以上も交流が会った美智子様は、5年前、王妃が亡くなった際、1泊3日という強硬日程で、単身国葬に参列された。当時、80歳。」

ベルギー大使ギュンデル・スレーワーゲン大使（翻訳）「美智子様は、ベルギー国民にとっても歓迎されました。それは同時に、両家族間の感動的な関係を示すことにもなりました。天皇は、まさに日本の精神であり、心のよりどころであるとみなされています。天皇の姿は、日本文化を見事に表現していて、海外の人々も、注目を集めるのです。」

ナレ「上皇様は、タイで特別な経緯を持たれているという。」

タイ駐日大使バンサーン・ブンナータ大使（翻訳）「こちらの写真は皇太子時代にタイの王宮で撮影されたものです。当時からタイ国民に、尊敬されています。」

ナレ「きっかけは、55年前、当時のプミポン国王から、食糧難で、タイ国民が、たんぱく質不足であることを相談された。魚類の研究者でもある上皇様は繁殖力の強い魚、ティラピアを、送られた。タイの気候にも合い、広く養殖され、食糧難を解消する大きな要因になったという。ティラピアは、タイでプラーニンと呼ばれている。プラはタイ語で、魚、ニンは漢字の仁で、明人の一文字を取ったと、言われている。」

タイ人女性（翻訳）「この魚が送られてきてよかった。おかげで、今では、タイの魚のようです。」

ナレ「天皇即位後、最初の海外訪問でタイを訪れるなど、その後も交流を深めてこられた。2017年にもタイを訪れる。前の年に亡くなったプミポン国王に哀悼の意を表した。これが天皇、皇后としての最後の海外訪問となった。」

タイ駐日大使バンサーン氏（翻訳）「弔問にいらっしゃったその姿を拝見しただけで、タイの国民は、とても感激しました。今話していても、涙が出そうです。」

膳場「両陛下に対し、今、どんなお気持ちをお持ちですか？どんな思いをお持ちですか？」

タイ駐日大使バンサーン氏（翻訳「この時期に日本で大使になれて、とても幸運です。お二人のためにも、タイと日本、そして、日本と外国とをつなぐ、懸け橋になる。それを全力で努めていきたいと思っています。」

ナレ「天皇として、二回目の海外訪問は、1992年、国交正常化から、20年を迎えた中国だった。当時、中国公使として、天皇訪中の実務の中心だった槇田邦彦氏。中国側の並々ならぬ熱意を感じたという。」

槇田氏「この訪中を問題なく行くと、そのために、そのためには何でもすると、いうぐらいの気構えだったと思いますね。」

ナレ「中国政府は、厳重な警備を約束した。」

槇田氏「故宮博物館ってあるでしょ。そこにね、両陛下がいかれるということで、準備をしていると、何台ものバスがね、やってきて、そんなかには、その親子連れとか、普通の市民の服装をした人たちが、こうバスから降りてきて、それで故宮の敷地に入っていくわけですよ。ね、これは全部警察の人、警察の家族、だから、その、そうでない人たちは入れないようにしている。」

ナレ「訪中は、陛下の強い意向でもあったという。先の大戦についての発言が注目された。」

槇田氏「歴史問題についてのね、は、天皇陛下自ら、手を加えたものだと聞いています。」

"ナレ「そのお言葉が、」

陛下（当時）「我が国が、中国国民に対し、多大の苦難を与えた不幸な一時期がありました。これは、私の深く悲しみとするところであります。」 "

ナレ「その後、訪れた上海では、歓迎する市民が沿道を埋め尽くした。」

槇田氏「受け入れ側の、その、政府、並びに国民、は、非常に良い印象をね、あの両陛下に対し、持ったと思いますね。」

〔VTR3〕

上皇陛下「全身全霊をもって象徴の務めを果たしていくことが、難しくなるのではないかと、案じています。」

ナレ「今回の代替わりは、3年前、退位の意向をにじませたお言葉に端を発する。そこでは語られていない事実がある。」

元女官「大炊御門さんなんか摂政を置くのに反対だったんですよ。ご寿命が短こうでもええで、陛下のままで終わらし申したいと」

ナレ「私たちが、見つけ出した。カセットテープ。およそ100年前、大正天皇に仕えた女官の肉声だ。さらに、アメリカで見つけたのは、大正と昭和の天皇の二人の名前が並んだ直筆の署名。いずれも、今回の代替わりの原点につながるものだ。日米で発見した新資料から、知られざる歴史が、明らかになる。」

金平「アメリカメリーランド州にある国立公文書館です。日本の天皇が、アメリカの大統領に宛てた手紙を発見することができました。」

ナレ「膨大な資料を保管、公開しているアメリカ国立公文書館。歴代の天皇代替わりを今に伝える貴重な資料は、国務省の外交文献ファイルから見つかった。通常の親書は、白い封筒で、裏に菊の御紋がある。だが、」

金平「黒い、特別な封筒でここにも菊の御紋がこういうふうにあります。でこの中を見るとですね、亜米利加合衆国大統領どのとあります。」

ナレ「これは、大正天皇による親書の現物だ。107年前の大正元年9月、タフト大統領に、宛てられている。」

金平「嘉仁ですね、貴大統領ノ良友」

ナレ「良友、という言葉から始まり、明治天皇の崩御とともに、自らが天皇の位を受け継いだことを、知らせている。隅で書かれた嘉仁の署名は、大正天皇の直筆だ。英語の翻訳した文章も、同封されていた。」

金平「明治天皇が亡くなられて、すぐの時期に、大正天皇がアメリカの大統領に対して、変わらぬ友好関係を維

持しましょうっていう手紙を送っているということが、」

ナレ「この 14 年後、大正天皇が崩御。それを伝える親書も、見つかった。署名は、昭和天皇の手によるものだ。」
親書「朕の崇敬愛慕する嘉仁陛下が、大正 15 年、12 月 25 日、葉山御用邸において、崩御せられたること、朕の痛疾に堪えさるところなり。」

ナレ「アメリカで見つかった崩御に関する親書。東京都内にある外務省外交史料館には、その親書に関する記録に加え、アメリカ大統領からの返信も、残されていた」

金平「これ、当時のままだからちょっと、緊張する。うわー」

ナレ「明治天皇崩御についてまとめたファイル。まず、日本が崩御を知らせた国の、一覧がある。」

金平「英、独、露、皇帝がいる場所が最初にそのあとが 2 行目に大統領が、仏、米、フランスが最初で、アメリカ。」

ナレ「アメリカ、タフト大統領から、大正天皇に宛てられた返信には、」

金平「WE are hauward taft って書いてあるね。president of united states of america でしょ。」

ナレ「日付は、1912 年、10 月、大正天皇が、親書を送った翌月だ。geart and good friend で始まる書簡には、お悔やみの言葉がつづられている。」

ナレ「これは、大正天皇崩御に関するファイルだ。親書の原案が、残されていた。墨ではなく、ペンでつづられている。」

金平「ここ、本文中、陛下の摂政に対しては、殿下に、大統領に対しては、閣下とすること。って注意書きが書いてある。ただし、米国大統領に対しては、貴大統領にすることって書き方までこういうように検討して、それに対しての書き込みまでありますね。」

ナレ「代替わりをめぐる歴史的資料は、歴代天皇と、大統領の親書だけではない。水面下で、アメリカ側は、天皇の健康状態について、詳細な情報を入手していた。その一端を示す電報もアメリカで見つかった。東京のアメリカ大使館から、国務長官へ、送られたものだ。1912 年、7 月 20 日の至急電報、明治天皇が重篤であること、最悪の場合もありうることを、伝えている。」

"ナレ「6 日後の電報では、」

電報「天皇の死が間もなく訪れるであろう。公式発表は遅れる見通しだ。」"

ナレ「7 月 30 日に崩御した際には、アメリカが弔意を表した最初の国だったことをその日のうちに報告している。さらに」

ナレ「昭和に入り、1933 年、12 月 23 日明仁親王が誕生した。同じ日、アメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領から、祝電が送られている。親王の誕生が、午前 6 時。宮内省にその祝電が届いたのは、午後 2 時という速さだった。昭和天皇は、1928 年、弟の秩父宮の結婚についても、伝えていた。」

ナレ「昭和史を研究する保阪正康氏は、皇室がアメリカに親しみを持っていたことを、裏付ける資料だと話す。」
保坂氏「アメリカの大統領に対する天皇の側の思いというのは、私たちが考えている以上に相当親密であり、それから親密であるがゆえに、どんなこともプライベートなどんなことでも伝える。とそして、相互理解を深めるということだとおもんですね。だからこそこういう回路が出来上がって、お互いの正確な情報が、ご本人同士が伝え合うという形になっているんだなあと思いますね。」

ナレ「昭和天皇は、1941 年、9 月、ルーズベルト大統領の母親が亡くなった際にも、弔電を送っている。その 3 か月後、真珠湾攻撃。アメリカとの太平洋戦争が始まった」

保坂氏「アメリカと、友好の関係の歴史を持っている皇室と、仮想敵国として、アメリカと敵対するという道を歩んでしまった海軍。それをサポートする陸軍ということで、結局は、軍と皇室の間に大きな亀裂が生じる。そ

れが昭和の歴史ですよ。」

c m

ナレ「天皇の行為を代行する摂政はおかず、退位という形で行われた代替わり。私たちが発見した 3 時間に及ぶ、インタビューテープでは、今回の代替わりの原点ともいえる出来事が語られていた。」

元女官「貞明皇后さまが、おつむがすごくよろしいの、大正のお上はまたもうひとつそれをしんにゅうかけたほどお賢かったの、」

ナレ「声の主は、大正時代に椿の局と呼ばれた坂東登女子さんだ。大正天皇と、貞明皇后の最側近として仕えた高等女官で、御所特有の言葉遣いで語っている。」

坂東さん「登女子だから、乙女椿がよかろうって仰せになって、お上自身から頂戴する。「ならせられませ」というのをいらっしゃいって言いますよね、今の方は、私たちの時分、あの、お上に申し上げるのにも、ならされませって言う風にね、だから照宮さまが、虫にまでならちえれならちやれと、仰せになって、」

ナレ「椿の局にインタビューしたのは、方言や言葉遣いを研究していた静岡大学の元教授の山口幸洋さんだ。5 年前に亡くなっている。静岡県湖西市に住む山口さんの長男、淳洋さんを訪ねた。」

淳洋さん「昭和 51 年 4 月 23 日、坂東登女子さん。これは父の字ですね。山口さんの自宅には、たくさんのテープが残されていた。」

淳洋さん「まあいろんなおじいちゃんとか、おばあちゃんその地域のね、所へ行って、お話を聞いてそれをテープにとって文字にして、」

ナレ「こうした録音機材をもって、椿の局のインタビューにも臨んだという。」

淳洋さん「御所ことばについてですね、興味があって、それで、椿の局さんのインタビューに行けたっていうのは、本当に喜んでたみたいですね。その時は本当に、興奮していましたね。あの一そういう方に会えるってことは。なかなかできないと思いますので。」

ナレ「インタビューが行われたのは、1976 年、椿の局は、宮廷内の様子や、大正天皇の人柄について語っていた。音声が公開されるのは、初めてだ。」

坂東さん「あの一陛下のお毒見しますでしょ。お配膳の前にそのうちのすこしずつを皆取りますの。お魚ならこんな一切れとか、でそれをいただきます。」

山口教授「大正天皇様は、絵をお書きになられるんですか？」

"坂東さん「そうね。あんまりあの一お絵よりも、お歌やら詩をお上手であそばした。」

山口さん「字はお書きになったのですか？」

坂東さん「字はお上手ですよ。活発な大きな字をお書きあそばす。」

山口さん「字を書くのが趣味だったのですか？」

坂東さん「あの一その、お趣味というよりもね一、毎日あの一御名あそばすでしょ。」

山口さん「お仕事ですよ。」

坂東さん「ええ仕事ですよ。」

山口さん「趣味って何か、好きなこととか、」

坂東さん「はえっ？」

山口さん「好きなこととか。」

坂東さん「お好きなのは、お馬ですね。ご乗馬がね。」 "

ナレ「大正天皇は達筆で、優れた漢詩の詠み手だったことでも、知られている。」

ナレ「インタビューの橋渡しをしたのは、少年時代から、椿の局と親交があった、伊藤悦夫さんだ。現在は、83

歳。椿の局が戦後まもなく近所に移り住んだことから、親しくなったという。」

"伊藤氏「いやー僕がだいたい10ぐらいの時だね。」

スタッフ「その時はよく遊びに行かれてたんですか？」

伊藤さん「いやーしょっちゅう裏から暇さえあれば、行ったっていう時代だもんね」

ナレ「親交は椿の局が亡くなるまで、およそ30年にわたって、続いた。」

伊藤さん「これね、この2つが、椿さんからもらったわけで。」

ナレ「この銀杯は、大正天皇も3男だった高松宮信彦親王の成人を記念したものだ。」

ナレ「さらに、アルバムの中にあったのは、」

"伊藤さん「これは明治天皇。」

スタッフ「誰がもっていたのですか？」

伊藤さん「おばさんが持っていた」

ナレ「若かりし頃の明治天皇の写真だ。」

"伊藤さん「これが椿さんだあ。」

スタッフ「椿さんの？晩年のお写真？」

伊藤さん「そうそう。」

ナレ「今回、見つかったテープは、伊藤さんが保管していた。山口さんからもらったものだという。改めてテープを聞いてもらった。」

伊藤さん「ああ懐かしい声だなと思ってね。優しい人で、厳格だったそのかし、厳格だったよね。」

ナレ「椿の局は、病弱だった大正天皇の体調について、詳しく語っている。」

坂東さん「お上は天才的っていうんですかね。お教えせんでも、ちゃんとお素読あそばした。あんまりおつむが良くって、お体がお弱くあらしゃったんでしょうと。思いますよね。伴わないもんで。おみ体の方が。幼さんのお時分からお弱さん、お弱さんとおばあさま方、申し上げたもんで、それがお嫌いで、お風邪さんでも、お花をハンカチをこう上にね遊ばして、こうやって吸い取ってなさるんですよ。それで、いうなよ風と言うなよっておおさって、はいって申し上げておくんですよ。とってもお優しいもんで、人に心配かけることをすごいお嫌い遊ばしたんですよ。」

ナレ「幼い時から病弱で、お弱さんと言われていたという大正天皇は、1912年、32歳の時、明治天皇の崩御とともに、天皇の位についた。アメリカの国立公文書館で発見した大正天皇の署名入り親書は、大正元年から、大正8年まで、7通ある。署名の嘉の字に見られる達筆で流れるような筆遣いは、時間の経過とともに、変わっていく。向かって右側にある大正元年の署名と比べると、左の大正8年は、嘉の字がはっきり違っている。」

ナレ「近現代の天皇制を研究する原武史教授に見てもらうと。」

原教授「天皇になってからね、比較的やっぱり短期間で体調を崩すんですけども、その変化がこういう字体の変化からも読み取れるんじゃないかと思いますね。だから大正8年くらいになってくるとですね、もう明らかに天皇の体調がですね、もう崩れているんですね、崩れてきていて、それでもう、その首相の原敬も日記の中で書いていますけどね、どうもこの病気は脳の病気らしいということが、もう分かっているというか、分かっている段階に実はもうなっていますね。」

ナレ「そして、1921年、当時の皇太子、のちの昭和天皇が20歳で摂政に就任。代わりに公務を行うことになった。摂政就任後、アメリカに知らせた親書には、嘉仁と裕仁、2人分の署名がある。」

"原教授「代筆ですね。」

金平「ええこれ、仁という字が全く同じですね。」

原教授「そうですね。」

金平「つまりこの段階ではもう、摂政ですから、関われなくなったんですか？」

原教授「そうですね、だからもう、こういう御名に関しても、完全に皇太子が代筆している。」

ナレ「アメリカ大統領からの返信には、大正天皇の病気を心配して回復を信じていると、記されている。ここは、当時大正天皇が静養していた葉山御用邸だ。東京から葉山へ最後に向かった時のことを、椿の局はこう振り返る。」

坂東元女官「お自動車へね、召さすとき、いやっと仰せになった。お自動車にまあ分からんように、ずーっと押して、お入れしたら、お庭の方に自動車回して、」

ナレ「当時はもう歩行が困難で車内では、まっすぐ座ることもできず、トイレにも行けなかったという。」

坂東元女官「こうお椅子へこういうふうにお結わきしたの、で、途中でまたお手水がおいでになりたいってかかって、で、お袋をあげてね、だからね地獄の責め苦ですわ。途中でもしかのことがあったらちゅうで、侍従だった黒田さんが注射器もってらっしゃったですもの、申し訳なくて、あのほんと、涙がでましたよ。」

ナレ「そして今回の退位の原点ともいえる問題が起きる。摂政をめぐる宮廷内の対立だ。大正天皇の侍従、大炊御門はこう話していたという。」

坂東元女官「大炊御門さんなんか、摂政置くの反対だったですよ。ご寿命が短こうでもええで、陛下のままで終わらし申したいって天皇さま明治さまにお仕えなさった方ですよ。で、その方がいつでもおっしゃったのは、これから先もめったにお歴代さんにあらせないような立派なお上だとおっしゃってましたですね、これからもそういうお方様お出ましにならなかったらととおっしゃって。」

ナレ「摂政を置くのに反対する側と、摂政となる皇太子を支える側の対立が、起きていたというのだ。上皇様のご学友、明石元紹さん。3年前、電話で話した際に上皇様は、当時の対立について、こう語られたという。」

明石氏「大正天皇がまだお気の毒だという周りの人とかね、日本の上層部の意見もそういう意見もある人はあったし、片方では、早くお元氣な昭和天皇に摂政として新しい時代を開いていただきたいとそういうその双方の意見がありましたから、これがやっぱり国論を二分するような感じで、摩擦があったと聞いているからこういうこともよくないじゃないかと僕は思いますよと。昭和天皇もあんまり良い気持ちでなさったようには聞いていない。」

ナレ「今回の退位前、摂政についても議論があったが、上皇様は、大正時代の経緯に触れ、摂政を置かず、退位することをのぞまれたという。」

"ナレ「椿の局のテープを原教授に聞いてもらった。」

原教授「これは非常に貴重なね、録音だと思いますね。昭和天皇が摂政になった際に、やはりあの、宮中が非常にこうなんていうか、ギクシャクした関係になってしまったっていうね。裏側に一体何があったかということまでは、まあまだなんていうか必ずしもなっていないわけですから。で、その裏側の話というのがこの椿の局のですね、証言からまあ私は浮かび上がってくるような気がするんですね。」

天皇陛下「みなさんからお祝いいただくことをうれしく思い、深く感謝いたします。」

ナレ「皇居では、今日、新天皇の即位を祝う初めての一般参賀が行われた。59歳の天皇陛下は、これからどのような道を歩まれるのか。」

ナレ「皇太子時代には、イギリスのオックスフォード大学へ留学。その後も海外では、気軽に市民と記念撮影に応じる一幕もあった。登山の愛好者で、水問題の研究者としても知られる。原教授は、こうした経歴に着目している。」

"金平「何を、一番注目してみますか？」

原教授「平成という時代はですね、私はどちらかっていったら、こう、国民との関係ってものを、もっぱら追及

してきたと思っているんですよね。だからこの全国津々浦々を、周り、それがこう変わるかどうか。っていうところで、この新しい皇后も元々外交官としてのキャリアをもってるわけですし、新天皇もオックスフォードに留学をし、世界的なというか、グローバルな環境とか水の問題に関心があるわけですから、そのあたりのなんというか、経歴というものが生かされるかどうか。ですよね。まあそのあたりは、ちょっと注目してますけども、"ナレ「保坂氏は父の何を受け継ぎ、どんな新しいスタイルを示されるのか、注目している。」

保坂氏「私が平成の天皇に対する尊敬の念というのは、やっぱり先帝の昭和天皇の戦争をですね、やはりご自身できちんとまあ追悼慰霊を繰り返す。そして、それをあの、国民だけではなくて、国際社会きちんと示していることだとおもいですね。それが日本にとっての大きな財産ですよ。令和の天皇は、今の時代に戦争ははるか昔です。しかし同時に戦争そのものを追悼するという気持ちは、大事だと思いますけど、あの平成の天皇がおやりになったそのままの形をやるっていうことは、またそれはおかしいことだなあと」

保坂氏「天皇は、それぞれの時代にご自身の考えで、ある程度時代を作っていくわけですね。その時代と向き合っている天皇と私たちとが、うまくこう合致すると、そこにすごい良い関係ができるんだと思うんですね。」

上記の VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「あの女官だった椿の局、坂東さんの話から浮かび上がってくる大正天皇の素顔っていうのは、これは新鮮に感じましたね。まあ今回の代替わりでも、上皇様、あと新しい天皇陛下のお人柄が、様々詳細に伝えられましたけれども、ともに歩む天皇陛下の個性が見えてくるっていうのは、安心感がありますし、良いですね。」

日下部「うんあの、そういった人柄とか、個性っていうのがね、私たちに、直にこう感じられる。伝わってくるっていうのが、意外に大切なことなんですね、ということですね、一方でこう天皇の個性というものがひた隠しに隠され、ベールの向こう側にそれで、天皇個人ではなくて、天皇制という制度が、ばかりがこう強調される時代っていうのは、時の権力者がね、天皇制を巧みに操ろうとしている。これは何度も繰り返されてきた歴史があるというのは、事実だと思うんですね。」

金平「あの、アメリカの国立公文書館にあった天皇の親書ですね、現物ですけども、これ実は 4 年前から調べてたんですけどね、あのアメリカ在住のサーチャーのグリーンせいこさんという方が最初に見つけたんですよ。で、その墨で書かれた独特の天皇家の封筒とか、直筆の署名を見るとですね、正直いうとちょっと興奮しましたがけどね、で、今まで 21 通確認されているんですけども、親書がですね、これはやっぱり日米関係の源流を探るという意味が非常にあったというように思いまして、保坂さんとか、原武史さんはですね、歴代の日本の天皇っていうのは、明治、大正、昭和とアメリカとの友好を望んでたんだと、それが何で、1941 年に、ああいう、真珠湾攻撃に至るのかっていう意味でもですね、この天皇親書っていうのは、いろんなことを私たちに教えてくれるんじゃないかと、それとあの、椿の局のテープですけども、平成の天皇が、判断した、摂政を置かないっていう判断。根拠になったんじゃないかと、貴重なものですね。」

膳場「以上特集でした」

この特集に当てられた時間は 3005 秒だった。放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

特になし